

- ・NBC災害訓練
- ・地域連携研修会の報告と次回予告

## 報告

# NBC災害訓練

Nuclear, Biological, Chemical



山梨県立中央病院  
高度救命救急センター長

宮崎 善史

令和4年10月18日NBC災害訓練が行われました。NBCとは、Nuclear（核）、Biological（生物剤）、Chemical（化学剤）のことで、世界的にはテロリズムなどに利用される危険性があるものです。最近では民生用の放射性物質（Radiological）や爆弾（Explosive）を用いたテロリズムを加えて、CBRNE（Chemical、Biological、Radiological、Nuclear、Explosive）とも呼ばれています。日本でも1995年の地下鉄サリン事件をはじめ、テロの脅威とは決して無縁のものではありませんし、原子力発電所の事故も実際に起きております。このような情勢を背景に、当院でも特殊災害やテロリズムを対象にした災害訓練を毎年行っております。

今年の訓練は、硫化水素が発生して汚染された傷病者が複数名いることを想定したものといたしました。しかし、当初は原因物質が不明なため、正体不明な汚染物質に不安を抱きながら防護服を着つつ対応準備に当たりました。傷病者の受け入れに際しては、病院内への汚染を防ぐため、救急入口の外に除染（汚染物質を除去すること）のためのテントを設置いたします。このテントの設置は非常に大掛かりであり、病院事務職員が総力を挙げて出来るだけ迅速に行います。また、汚染物質の付着した除染前と汚染物質が除去された除染後を明確に区別するため、ゾーニングと呼ばれる区域設定をいたします。除染前の区域は非常に危険なので、防護服を着用した者以外は立ち入り禁止となります。

来院した傷病者は、まず設置したテント内で除染されます。時には、シャワーを用いて体を洗い流します。その際に対応する医療スタッフは防護服を着用して自身への汚染を防ぎながら、傷病者の容体を把握しつつ除染にあたります。防護服は汚染物質から身を守るように気密性が高く、それ故に熱が籠ります。内部は非常に暑くなるため、20分程度で別の医療スタッフに順次交代いたします。除染が終わった傷病者は病院内の救急処置室に入り、詳細な検査や治療を受けます。解毒剤が存在するような原因物質が特定されれば、その解毒剤を投与いたします。この一連の動きを統括医師とリーダー看護師が指揮し、職員の安全を確保した上で傷病者に対して最適な治療を行います。

当院は山梨県唯一の高度救命救急センターを擁しており、山梨県内で起こる災害に対しては消防や警察など他の関係機関と連携しつつ医療面で中心的な役割を果たします。また、特殊災害に関しては、山梨県では当院でなければ即時の対応が困難です。こうした事情を踏まえ、当院では日頃から今回のような訓練を通じて災害時に素早く対応出来るよう備えております。

実際の災害時には、こうした当院の役割を果たすために、病院全体が通常診療から災害対応に切り替わることを県民の皆様に御理解いただき、御協力いただけるようお願いいたします。



除染のためのテントを救急入口の外に設置



防護服を着用して除染にあたる医療スタッフ



地方独立行政法人山梨県立病院機構

山梨県立中央病院

YAMANASHI PREFECTURAL CENTRAL HOSPITAL

患者支援センター

〒400-8506 山梨県甲府市富士見1-1-1

TEL.(直通)055-253-9000/FAX.(直通)055-251-7733



# 看護師特定行為研修 看護師の役割拡大を目指して

当院は、2021年度に「看護師特定行為研修指定研修機関」として指定を受け、2022年度より看護師特定行為研修を開講し、特定行為を実施できる看護師の養成を行っています。

看護師特定行為とは、実践的な理解力や判断能力のほか、看護の視点のみならず医学の視点からも専門知識や技術をもって行う「診療の補助」であり、相対的医行為のうち、明確に区別された高レベルな21区分38行為があります。この38行為について、包括的指示のもと実践が行えるという点で、認定看護師や専門看護師と大きな違いがあり、今後の医療を支える者として、またニーズが高まる在宅医療で活躍できる看護師としても期待されています。

特定看護師の役割は、難易度の高い診療の補助業務を、医師があらかじめ作成する「手順書」(包括的指示)のもと実践することです。病院でも在宅でも、医師の到着を待たず、患者さんの症状にあわせて適切なタイミングに必要な処置ができる看護実践能力の高い看護師が増えると、症状悪化を防ぐことや、早期回復に貢献できるという患者さんへのメリットだけでなく、医師のタスクシフトにもつながります。また、特定看護師が増えること、特定看護師が身近にいることで、ケアの質の向上に繋がると共に、治療と生活の両面からの支援の促進にも貢献できると考えています。

## 当院で行っている特定行為研修

CHECK  
1

### 研修科目について

#### 共通科目

(250時間)

臨床病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床推論、臨床薬理学、疾病・臨床病態概論  
(主要疾患の臨床診断・治療/状況に応じた臨床診断・治療)、医療安全学/特定行為実践

#### 区分別科目

##### 1. クリティカルケアコース (103時間)

区 分	内 容
呼吸器(気道確保に係るもの)関連	経口または気管内チューブの位置の調整
呼吸器(人工呼吸器療法に係るもの)関連	人工呼吸器の設定変更や離脱 人工呼吸管理中の鎮静剤の調整
栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	中心静脈カテーテルの抜去
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	高カロリー輸液量の調整、脱水時の輸液調整
術後疼痛管理関連	硬膜外カテーテルの鎮痛剤の調整
循環動態に係る薬剤投与関連	降・昇圧剤、利尿剤、電解質輸液などの調整

##### 2. 感染コース (47時間)

区 分	内 容
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある際の薬剤臨時投与
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	高カロリー輸液量の調整、脱水時の輸液調整

※共通科目試験、区分別科目試験に合格した後、臨床実習を行います。

※2023年度より、クリティカルケアコースに「血糖コントロールに係る薬剤投与関連」「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」の2区分を追加予定です。

# Topics

## 看護師 特定行為研修 の紹介

CHECK  
2

## 研修の様子



身体診察トレーニング

区分別科目：  
挿管チューブの  
位置の調整



演習－症例検討



e-learning

現在、7人の看護師が働きながら受講しています。e-learning、演習、実習、OSCE、科目試験、臨床実習と研修を進めています。職場や自宅でe-learning を聴講後、経験豊かな指導医のもと、集合研修(演習・実習)を行います。直接指導医からの指導・助言を受けられるため、医師の思考過程を理解する絶好のチャンスです。そして、研修を通じて院内で働く多くの医師との関係性を構築する良い機会となっています。指導医となった医師たちは、特定行為研修に理解を示し、更にはキャリアアップを目指す研修生にエールを送っていただきながら、多忙の中でも時間を作り丁寧に指導していただいています。

当初、7人は「知らないことばかりだった」と口をそろえて言っていましたが、今では「学び知ることは楽しい」「学びと現場での実践が結びついた時には感動した」と、生き生きと研修を行っています。また、臨床病態生理学・臨床推論・フィジカルアセスメント等の学びは、医学的判断の視点で観たり、多角的・多面的に捉え分析する力につながっており、現場において、データを活用しながら患者さんの身体アセスメントを行い、観察点・注意点は何か、治療の意図は何かなどを考え日々のケアを行うなど、OJTで活かされています。

## 特定行為研修制度の活用への期待

病態の変化等を的確に判断する能力が強化され、  
看護の関わりの中で特定行為も含めた医療を提供することで、  
質の高い医療を効率的に提供可能に！

患者の状態に合わせた  
タイムリーな対応が可能

適切なタイミング

・重症化予防・早期回復(異常の早期発見・早期介入)  
・患者の待ち時間の減少  
・外来受診減少・在宅療養の継続  
(在宅・介護施設での迅速な対応)

効率化

「治療」と「生活」の両面  
から患者へアプローチ

患者満足

質の向上

・生活習慣病コントロールの改善  
・患者・家族の立場から治療や検査  
についてわかりやすく説明  
・多職種をつないだチーム医療

安心・安全

公益社団法人日本看護協会



# 地域連携研修会が開催されました

8.31 WED

## 「高齢者大腿骨近位部骨折患者における骨折リエゾンサービスの取り組みと二次骨折予防継続管理料について」



山梨県立中央病院 整形外科部長 江口 英人 医師

令和4年8月31日(水)、Webシステムを利用して地域連携研修会を開催しました。当院、整形外科部長江口英人医師より「高齢者大腿骨近位部骨折患者における骨折リエゾンサービスの取り組みと二次骨折予防継続管理料について」について講演し、院内21名、院外29施設、合わせて50名の方に参加していただきました。

9.9 FRI

## 「がん疼痛の薬物治療」



山梨県立中央病院 緩和ケア科  
緩和ケアセンター統括部長 阿部 文明 医師

## 「緩和ケアチームの活動」

山梨県立中央病院 緩和ケア科  
緩和ケアセンター看護師長 天野 園美

令和4年9月9日(金)地域医連携研修会をWebにて開催しました。今回は、緩和ケアセンター統括部長阿部文明医師と緩和ケアセンター天野園美看護師長により講演し、院外28名、院内32名の方が参加くださいました。訪問看護ステーションからの参加者も多く、研修会後のアンケートからは「実践的な内容で現場に生かしたい」「今後も中央病院と地域で連携を密にとっていきたい」などご感想をいただき、有意義な研修会となりました。

10.27 THU

## 「エイズ講演会(メンタルヘルス・HIV以外の病院診療・子供をもつこと・依存症)」

日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス 代表理事 高久 陽介 先生



令和4年10月27日(木)Webシステムを利用してエイズ講演会と共同開催で地域連携研修会を開催しました。日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス代表理事高久陽介先生より「4つの課題について(メンタルヘルス・HIV以外の病院診療・子供をもつこと・依存症)」について講演し院内外合わせて134名の方に参加していただきました。

11.14 MON

## 「風邪診療について ～新型コロナウイルス・インフルエンザと共に～」



山梨県立中央病院 総合診療科・感染症科  
専攻医 三須 智榛 医師

令和4年11月14日(月)、Webシステムを利用して地域連携研修会を開催しました。当院、総合診療科・感染症科専攻医三須智榛医師より「風邪診療について～新型コロナウイルス・インフルエンザと共に～」について講演し、院内24名、院外27施設、合わせて51名の方に参加していただきました。

## 次回研修会

Web研修会

Zoomでの開催

(予定)

日時: 2023 1月27日(金)

18:30~19:30

## 喘息とCOPD (仮)

山梨県立中央病院 呼吸器内科

島村 壮 医師

研修会の情報はホームページでも  
ご案内しています。併せてご覧下さい。

<http://www.ych.pref.yamanashi.jp/>



紹介状のある初診患者さんは、患者さんご自身による電話予約や、かかりつけ医によるFAX予約ができます。 **FAX. 055-253-2903**

当院では、日頃よりかかりつけ医を持っていただくことをお勧めしています。

体調に変化があったときはかかりつけ医に相談の上、紹介状(診療情報提供書)を持って受診してください。

紹介状のある初診患者さんは、初診の予約ができます。予約をすることで初診はさらにスムーズになります。

1

### かかりつけの 医院を受診

紹介状をもらって  
ください

2

### 専用ダイヤルにお電話

以下にお電話ください

☎055-253-7900

9:00~17:00 月~金(祝祭日除く)

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③当院の診察券(お持ちの方は)

お電話前に  
準備して  
ください

3

### 受診当日

ご予約30分前に総合案内にお越しください

お持ちいただく物

①紹介状 ②電話診療予約申込書  
③保険証 ④当院の診察券  
⑤受給者証(老人医療、公費等該当する方)